

看護師特定行為研修修了式を開催しました

2023年7月25日(火)に看護師特定行為研修修了式を開催しました。看護師特定行為研修指定機関としての第4期生「術中麻酔管理コース」初の修了生2名です。病院長・副病院長より、看護職として成長していく姿勢や医療の質向上に向けて活躍していくことを期待する言葉をいただきました。研修中は多くの診療科の先生方にご指導・ご協力していただきました。修了生は「医師と看護師の両方の視点を持った看護師として、患者さんに安心・安全な周術期看護を提供していきたい」「患者さんの安全を守りながら研修で得た知識・技術を活かし、患者さんに安全な医療として還元していきたい」という抱負を持っています。特定看護師として、周術期の患者さんのケアの質向上につなげていけるように取り組んでまいります。



修了式の様子

総務大臣が本院の視察に来られました

2023年6月29日(木)、松本剛明総務大臣が中川貴元総務大臣政務官とともに名古屋市立大学病院を視察しました。本院から郡健二郎理事長、間瀬光人病院長が、名古屋市からは中田英雄副市長、杉浦弘昌総務局長が同席して、意見交換を行い、大臣は本院に導入している国産初の手術支援ロボット「hinotori(ヒノトリ)」の操作体験や現在建設中の「救急災害医療センター」について、建設現場等の視察を行いました。また、本院からは松本大臣へ建設費高騰を踏まえた財政措置の要望書を手交しました。



左から中川政務官、松本大臣、中田副市長、郡理事長



hinotori(ヒノトリ)の操作体験をする松本大臣

書籍「名市大ブックス」シリーズ好評発売中！新刊をご紹介します

書店やネットで売上ランキング1位獲得の書籍シリーズ「名市大ブックス」
この夏、第13巻、第14巻の発売を開始しました！！

第13巻『ストレスとは？～あなたに合う生き方のヒント』は、ストレスに立ち向かう体のしくみやストレスが関連する病気などストレスとうまくつきあうための知識を本学の教授らが解説しています。

第14巻『意外と知らない薬の話～暮らしに役立つ薬の知識』は、薬のしくみやリスク、副作用など薬の開発から使用まで暮らしに役立つ知識が詰まった1冊です。

名市大ブックスは、名市大病院、東部・西部医療センター、みどり市民病院、みらい光生病院内のコンビニ・売店やお近くの書店、またはインターネットにて好評発売中です。



副腎腫瘍センターを開設しました！

看護師特定行為研修修了式を開催しました ……4

総務大臣が本院の視察に来られました ……4

書籍「名市大ブックス」シリーズ好評発売中！

新刊をご紹介します ……4

名市大病院のチカラ Vol.28 ……3



名古屋市立大学は、
THE インパクトランキング
2023において、SDG3（すべての人に健康と福祉を）で世界7位
（2年連続国内1位）となりました。

副腎腫瘍センターを開設しました！

このたび名市大病院では、“かくれたコモンディーズ”、副腎腫瘍の診断と治療に取り組む目的で、副腎腫瘍センターを設立しました。同センターでは、内分泌・糖尿病内科、循環器内科、腎臓内科、放射線診断・IVR科、泌尿器科、麻酔科、病理診断部、看護部、管理課、医事課などが部門横断的に力を合わせて取り組むことで副腎腫瘍を正確に診断し、最先端の治療を提供いたします。

日頃意識されてますか？“副腎”

副腎は、腎臓の頭側にある数cm大の小さな臓器ですが、生命維持や血圧を維持するホルモンを分泌するととても重要な臓器です。副腎腫瘍では、ホルモン分泌が過剰になり、高血圧や体液の成分変化を引き起こすことがあります。意識しにくく、診断されにくいのが特徴です。

副腎腫瘍が見つかったら・・・

副腎腫瘍はCT検査や腹部エコー検査などの画像検査で偶発的に見つかることも多い腫瘍です。また、高血圧、糖尿病、肥満症、電解質異常などのありふれた病気の背後に潜んでいることもあり、腫瘍サイズは大きくないこともあります。このような場合、診断にいたらず、適切な治療がうけられないまま時間が経ってしまうこともあります。

代表的疾患である、原発性アルドステロン症は、高血圧の5-10%、治療抵抗性高血圧の20%程度にみられるといわれています。副腎から分泌されるホルモン、アルドステロンによって血圧が高くなるからです。診断は、採血によってアルドステロンを測定することから始まります。副腎から出る静脈の中のアルドステロンを測定し、診断が確定すれば、適切な内服薬で管理し、腹腔鏡手術やロボット手術で高血圧を完全に治すこともできます。またクッシング症候群や褐色細胞腫では、コルチゾールやアドレナリンなどのホルモンの過剰な分泌によって、それぞれ肥満・糖尿病・高血圧や、突然の高血圧による頭痛などの症状がおこります。これらもきちんと診断ができれば、適切な治療が可能です。まずは副腎腫瘍を疑い、検査してみることが大切です。

副腎腫瘍は、診断確定や治療方針の決定に専門的な判断が必要なことが多いのが特徴です。画像検査で直径3cm以上の副腎腫瘍が見つかった場合、新たに発症した高血圧、難治性の高血圧、治療困難な肥満を伴う糖尿病、電解質の異常（低カリウム血症など）がみられたら、是非お気軽に当センター（窓口は、内分泌・糖尿病内科、循環器内科、腎臓内科）を受診ください。

副腎偶発腫・2次性高血圧・ホルモン異常・電解質異常など

副腎腫瘍センター



連携プレーで的確な診断・ベストな治療を提供いたします

名市大病院のチカラ Vol.28

中央放射線部

より安全・迅速・有益な画像提供のために

中央放射線部CT検査室では、2023年3月より中部地域で初となるフォトンカウンティング検出器を搭載した2管球CT装置「NAEOTOM Alpha（ネオトム アルファ）」（シーメンスヘルスケア株式会社）を稼働しております。

NAEOTOM Alphaで得られるCT画像は、従来のCT画像と比べて、テレビ放送がアナログからデジタルに変わったかのような画像であり、患者様へ鮮明かつ情報量の多い画像を提供することが可能となります。これは、NAEOTOM Alphaに搭載された検出器が革新的な進化を遂げたことに起因しています。

CT画像は人体を透過したX線光子を検出器で検出し画像化しています。従来の検出器では光子を可視光に変換し検出していたため、光子一つ一つの特徴を掴めずにいました。しかし、今回搭載されたフォトンカウンティング検出器ではX線光子を直接検出することが可能となったため、各光子の特徴（エネルギーなど）をより詳細

に把握でき、少ない放射線量で高解像かつ有益なデータを取得できます。

以上のことにより、従来のCT画像では検出できなかった細かな病変が鑑別可能となる症例や追加検査を実施することなく診断が可能となりうる症例が増え、多くの診療科において診断の向上が期待され、被ばくの低減や診療時間の短縮も見込まれます。

このようなメリットを活かしながら、患者様へのご負担がより軽減され、安全で有益な画像を提供できるようスタッフ一同、取り組んでまいります。



NAEOTOM Alpha(ネオトム アルファ)

臨床研究開発支援センター

臨床研究の推進による新しい医療の開発

臨床研究について

“臨床研究”という言葉にどのようなイメージをお持ちでしょうか？臨床研究とは人を対象として行う研究の総称になり、新しい医薬品・医療機器、新しい診断法や治療法の有効性や安全性を評価するために行われます。臨床研究の中には通常の診療の中で患者さんの経過を追跡していくものや、新たな医薬品や医療機器に対する国の承認を目的とする治験などがあります。

臨床研究開発支援センターの役割

大学病院には医薬品・医療機器や医療技術の研究開発に取り組み、医療の発展に寄与することが求められており、名市大病院においても数多くの臨床研究が行われています。臨床研究開発支援センターでは、これらの臨床研究が安全、適正かつ効率的に実施できるよう管理、支援することを業務としています。センターには専属の医師、臨床研究コーディネーター、事務職員が在籍し、臨床研究を行う医師・研究者や研究対象者である患者さん

の支援を行います。また、臨床研究の実施にあたっては倫理面で厳密な対応が要求されます。そのため国の法律や倫理指針に従って、臨床研究に対する倫理審査を行うための倫理委員会の運営もセンターが担っています。このように倫理面に対応しつつ質の高い臨床研究を推進し、名市大病院から国際レベルの成果を発信できるようセンタースタッフ一同尽力いたします。今後とも皆様の御理解、御協力をよろしくお願い申し上げます。

臨床研究開発
支援センター

センター長 神谷 武
副センター長 福田 英克
中井 淳子

